

自己点検・評価報告書

令和3年度

学校法人野又学園

函館歯科衛生士専門学校

令和3年度 自己点検・評価報告書 目次

I	教育理念・目標	
	1. 教育理念	1
	2. 教育方針	1
	3. 教育目標・人材育成像	1
II	学校運営	
	1. 経営目標	2
	2. 管理運営	2
III	教育活動	
	1. 教育課程の編成及び実施	4
	2. 資格試験	7
	3. 教職員	8
	4. 在学生の状況	10
IV	学修成果	
	1. 就職状況	11
	2. 資格の取得状況	11
V	学生支援	
	1. 在学生への支援	11
	2. 卒業生への支援	13
	3. 中学校・高等学校との連携	14
VI	教育環境	
	1. 施設・設備	15
	2. 実習施設	16
	3. 防災計画	18
VII	学生募集	
	1. 広報・学生募集活動	18
	2. 学生納付金	19
VIII	財務状況	
	1. 予算・収支計画	20
	2. 会計処理・監査	20
	3. 財務情報の公開	21
IX	法令等の遵守	
	1. 各種法令の遵守	21
	2. 個人情報の保護	21
	3. 自己評価の実施	21
X	社会貢献・地域貢献	
	1. 社会貢献・地域貢献	22
	2. ボランティア活動	22
	3. 職業教育・職業体験	22
XI	学校満足度調査	
	1. 調査の結果	23

I 教育理念・目標

1. 教育理念

3年間の学生生活の中で、建学の精神の浸透を図り、豊かな人間性を基にした専門職に必要な知識・技術を修得させるとともに、自らの目標に向かい、学習意欲や態度を培うことができる専門的職業人の育成を目指している。

2. 教育方針

歯科保健に関わる問題に関し、専門的知識と技術を通して幅広い年齢層の対象者を援助できる能力を修得する。また、業務の多様化・高度化に対応できる専門性や創造性に優れた歯科衛生士を育成することを教育方針として、教育課程の適切な展開はもとより、教育課程にはない学校独自の様々な取組みや授業の工夫により、即戦力の育成を目指した実践教育を行っている。

3. 教育目標・人材育成像

- (1) 基本的な医学知識を身に付け、高齢社会に対応できる能力を養う
- (2) 学問的裏づけによる問題解決能力と、それを応用できる創造性を養う
- (3) コミュニケーションスキルや、ホスピタリティマナーを身に付け、豊かな人間性と社会性を育む
- (4) 歯科医療のプロフェッショナルとして、生涯学ぶ努力を怠らない歯科衛生士

《現状と課題》

令和3年度は、様々な評価を行った年であった。年度初めには全教員にたいし、カリキュラムについて意見をいただいた。カリキュラムの内容としては教育方針と人材育成像に照らし適正で、国家試験の出題基準に適合もしているが、履修学年や時数については検討の余地があると判断し、次回のカリキュラム改正に備えて準備することにした。

前期・後期修了時に授業評価を各学年で実施した。これまでの教科ごとに行っている評価ではなく、全体で分かりやすい授業と分かりにくい授業について理由を添えて記載してもらったことで、学生にとっての分かりやすさが明確になり、全教員間で共有することができた。3年課程になり以前に増して教科書の内容は難しくなっていることから、学生に寄添った教育を展開するうえで重要な調査であった。

年度末には本校では初の12項目からなる学校満足度調査を実施した。結果は報告書の最後に掲載するが、全体的に予想以上の高評価を得られた。近年ハラスメントが問題になっている学校があることも調査を実施するきっかけとなっているが、本校では学校の理念や教育方針、人材育成像を踏まえたうえでの様々な取組や、手厚い指導、教職員の『熱』が伝わっているものと大変嬉しく思う。

今後も学生の声を聴きながら、魅力ある教育、手厚い指導をモットーとし、地域歯

科医療を担う有能な歯科衛生士を育成するよう尽力する。

○ 評価の観点・検証資料

学園訓、事業計画、学則、学生便覧、シラバス、学校満足度調査
カリキュラム評価、授業評価

Ⅱ 学校運営

1. 経営目標

(1) 中期経営計画（令和2年度～令和4年度）

3年毎に中期経営計画を策定しており、3年間の取組みや本校の課題改善を目標にした計画を記載している。課題は、①再試験受験数の削減、②臨床指導者との連携の2点であり、令和3年度は中間年であったがそれぞれの取組みに成果があった。

(2) 事業計画

各年の年度末には次年度の学校運営について、『所属長方針』に従って事業計画、予算計画を策定している。

令和3年度の事業計画は、①教育力の向上、②教職員の業務分担の見直し、③効果的な広報戦略について単年度計画として取組んだ。

《現状と課題》

中期経営計画の課題である再試験受験数の削減については、試験2週間前からの学習を計画から状況把握まで共通のツールを利用しながらクラス全体で取り組んでいる。学習時間は個人差が大きいものの全体としては増加しており、結果は再試験数が50%減となった。しかし学生からは、計画や実施時数の記載が面倒、計画通りにはいかなないなどの声もあり、利用ツールを簡略化することにした。

令和3年度事業計画の重点課題3点については、特に全教員にカリキュラム検証のためのアンケートを実施し、様々な意見をいただけたことは大きな成果であり、次回のカリキュラム編成の骨子となる。また、学生対象の授業アンケートによって、分かりやすい授業の特徴について資料を作成し、共有できたことも有意義であった。

2. 管理運営

(1) 就業規則

就業規則は、『学校法人野又学園就業規則管理規程』の各校就業規則作成基準をもとに作成・運用しており、学園ネットワーク上でいつでも閲覧、プリントが可能である。また、改定の際には速やかに周知すると共に会議開催時には教職員に重ねて情報共有に努めている。

(2) 人事労務管理

教職員の勤務状況等はP Cのタイムカード機能により管理している。出張、休暇届、願い等は漏れなく提出されており、全てファイル保管している。また、休日出勤を要する場合は、振替休日にて対応している。

年次有給休暇は、取得状況を本人に年に2回報告することで注意喚起となり、全員が最低5日間は消化できているが、付与日数の消化は困難な状況にある。

(3) コンプライアンス

- ① 歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、承認申請事項、報告事項共に遵守されている。令和3年度は実習施設の追加変更承認申請を行った。
- ② 本校は、職業実践専門課程、専門実践教育訓練指定講座、修学支援新制度の認定校であることから、各法令・規定を遵守しており、特に情報の公開は年度の早いうちにホームページに掲載するよう努力している。
- ③ 専門実践教育訓練指定講座に関しては、令和4年度末で満期を迎えるため更新申請が必要だったが、要件を満たし次年度以降の指定を受けることができた。

(4) 情報公開・情報システム

- ① 学校ホームページや学校パンフレット、入試要項等の印刷物等によって各種の情報公開を行っており、学校基本情報に関してもHPにて毎年更新している。また学校生活におけるトピックス情報は随時アップしており、授業や行事、学生の様子から広報活動にいたるまでタイムリーに発信している。
- ② 令和3年度から、インスタグラムとYouTubeからも情報発信ができるようになり、学生の様子や授業などの動画も公開している。
- ③ 職業実践専門課程、修学支援新制度の認定校であるため、機関要件となっている情報は毎年更新しており、自己点検評価、学校関係者評価については5月の理事会承認後にホームページに公開している。
- ④ 学園ネットワークにより、校内の業務管理、業務の効率化の他、学園関連校との情報の共有化も図られている。

(5) 運営協議会

開催日：令和3年11月11日(金)15:30

学校管理運営上の課題や重要事項の解決策等について協議しており、メンバーは法人から理事長、監事、事務局長が、学校からは校長、教員のなかから委員が参加している。

令和3年度は、授業欠席の扱いや休学期間などの学則変更と、学生募集に関する事項について協議した。

(6) 運営委員会

開催日：令和4年3月30日(水)19:30 於：函館歯科医師会館

函館歯科医師会と野又学園の法人間で、函館歯科衛生士専門学校運営委員会を開催し学校運営に関して広く協議・連携が行われている。メンバーは函館歯科医師会から、会長、副会長、専務理事の三役のほか、学校担当理事と事務局である。野又学園からは理事長、校長、教務主任が出席している。

令和3年度は学校からの報告事項と新入生の大幅減少の件、それに関連して学生募集の協力依頼と広告掲載等について協議した。また学校に寄せる中途採用の求人扱いについて学校案を提示し了承を得た。

《現状と課題》

専任教員の就業時間の超過に関しては、長期休業時の時短勤務や試験週間の時差出勤を試みたが不十分である。また週直制にしているが機能していない状況にある。これらを改善するため、次年度から学校の閉鎖時間を早くすることを含め、新たな対策を考えていく。

情報公開に関しては、インスタ、YouTube、LINE を始めたことで、ホームページの容量に限界がきている。既存のページのまま写真の追加・更新等で対応してきたが、リニューアルが必要となっていることから、次年度に計画する。

○ 評価の観点・検証資料

就業規則、就業規則管理規程、個人情報管理規程、公益通報者保護規程
変更承認申請書、5条報告書、
教職員出勤簿、休暇取扱い要領、運営委員会規程、運営協議会規程

Ⅲ 教育活動

1. 教育課程の編成及び実施

教務委員会開催 令和3年6月30日(水)19:30 於：函館歯科衛生士専門学校
令和3年12月10日(金)19:30 於：函館歯科衛生士専門学校

(1) 教育課程の編成

- ① 法令指定科目の遵守、規程授業時間数(単位数)を確保し、教育理念や教育目標を反映している。また国家試験出題基準の改定に対応すべく平成30年度に改編したカリキュラムについて、完成年度を終えて令和3年度は検証に入った。
- ② 教務委員会では教育課程に関わる事項をはじめ、授業、実習、就職等について幅広く協議し連携を図っている。

令和3年度は教育力向上の目標を踏まえ、専任教員の授業公開の際に歯科医師会講師会にご案内する件と、授業用機材の取扱い動画をYouTubeにアップしたことの周知について協議報告した。

《現状と課題》

第1回教務委員会の協議事項

- ①新カリキュラムの検証に係る非常勤講師へのアンケート実施について
- ③就職支援における説明会の開催要領

第2回教務委員会の協議事項

- ①令和4年度の授業公開日程と、授業器材の取扱い動画投稿完了について
- ②来年度学生募集の協力依頼

新カリキュラムの検証について、次回のカリキュラム編成に際し有意義なご意見をいただいた。履修学年変更の要望では、1年次から2年次への意見があるが、現状でも2年次の時間割が過密であること、一方で1年次は余裕があるため、学事のバランスが悪くなっている。

令和4年度の教務委員会において、これらの報告と協議を重ねていく必要がある。

(2) 教育指導方法

- ① 歯科ではPCを使用する授業が多く、電子黒板の活用は画像・映像等視聴覚を活用することでイメージしやすいが、スライドでの授業では進行が早くなりがちなため、板書との使い分けをしている。
- ② 専任教員には授業公開を義務付けており、相互に授業参観し評価することで適正な教授方法を共有し学校全体の教育力向上に努めており、令和3年度は一人につき前期・後期の2回実施し、その都度教員間で評価しながら学生のニーズに沿うよう努力した。
- ③ 教科のスタートにあたり、履修困難が予想される学生に対しリメディアル教育を行っている。スクリーニングテストにて対象となった学生には英語担当教員、数学については専任教員が各5回の授業前講習を行っている。
- ④ リモート授業では投票機能を使ったテストや、グループセッションができるようになり授業の幅が広がった。また可能であればハイブリッド型授業を行うことで登校できない学生のサポートができたことは大きな進歩であった。

《現状と課題》

専任教員が研修等で ZOOM の機能を学んだことで、リモートであっても授業の分かりやすさが格段にアップした。特にグループワークができるようになったことで、多様な授業が可能になったことが大きな成果である。

前期末、年度末に学生にたいし『分かりやすい授業とその理由』についてアンケートを実施した。様々な意見、要望があり学校の正解が必ずしも学生にとっての正解ではないこと、また何より教員の『説明力』が視聴覚教材やまとめ資料にも勝ることが分かった。今後も引き続き学校全体で『分かりやすい授業』に取り組んでいく。

(3) 教育課程の実施

- ① 年間の授業計画を変更して前期修了を8月中旬とし、後期開始を9月中旬としたことで前期時間割に余裕ができ、15回の授業展開も問題なくできるようになった。また、夏季休暇中の再試験により学期末に多くの教科の単位修得の認定ができるようになった。
- ② 令和3年度の臨時休校はなく、コロナ感染者によるクラスの閉鎖以外は計画通りに学事を進めることができた。しかし欠席者の出席停止扱いにより授業の進行や、補講・補習などに混乱をきたした。
- ③ 校外実習では函館歯科医師会をはじめ、地域歯科医療関係施設や高齢者施設のご協力のもと法令時間数を確保している。

《現状と課題》

年間でコロナウィルスの感染者数に差があることから、状況をみながら可否判断したことが多かった。特に校内演習ではシラバス通りの授業展開はできず、相互演習は適切な時期に実施できなかつたことが多い。またアクティブラーニングやグループディスカッションを控えたことで座学中心になった時期もあった。しかし細心の注意を払った結果、校内で感染拡大したことはなく、感染対策と授業の方法においてある程度のモデルケースとなった。

出席停止の扱いにおいて、特に濃厚接触者となった場合は授業を受けられない日数が多くサポートは必須であり、次年度はリモートで参加したり演習を撮影するなど対策が必要だと感じた。

(4) 成績・評価

- ① シラバスには担当教員の評価方法の記載があり、オムニバス形式の教科では講師ごとの点数配分まで正確に記載して学生には事前に提示されている。殆どの教科でペーパー試験を実施しており、採点は明確で客観的かつ公平である。
- ② 試験終了後の成績会議は、本試験終了後、再試験後に開催し、公正に単位認定を行い、進級・卒業判定が行われている。
- ③ 校外実習は、学校作成の評価表をもとに実習指導者による評価を実施しており、実習終了後に採点していただき、学生にフィードバックして次回の実習課題として指導している。令和3年度は評価表を変更し使用した。
- ④ 学修評価は、優(80点以上)、良(79～65点)、可(64～60点)、及び不可(60点未満)とし、可以上を合格とする。

《現状と課題》

特別試験を廃止して2年目であった。クラスで活用している試験対策の学習計画表が機能しているためか、再試験受験者数は半減している。今後は記載法を簡略化して継続使用していく。しかし、単位未修得となった学生が3名おり次年度に科目履修することになる。

前年度、3年次の教科である『総合講義』を合格できなかった2名は、10月から科目履修して合格となり、卒業することができた。

2. 資格試験

(1) 歯科衛生士国家試験

年 度	本校合格率 (人数)	全国合格率
R 3	100 % (32/32)	95.6 %
R 2	100 % (31/31)	93.0 %
R 元	97.1 % (34/35)	94.3 %
H 3 0	100 % (33/33)	96.2 %
H 2 9	97.3 % (37/38)	96.1 %

国家試験対策は総合講義(120時間,4単位)として各教科担当教員・講師による対策講義を行うほか、模擬試験は合計で10回実施し、その都度会議で状況把握に努めている。なお成績低迷学生には個別に学習指導にあたっている。

《現状と課題》

本校は100%の合格率であった。3年課程に移行後10回の国家試験を経験したが、全員合格が2年連続となったのは初めてである。しかし対策の成果というより出題の難易度が低い印象がり、相変わらず受験間際まで合否ライン上の学生が数名おり、最後は個別指導で合格に導いたことは例年通りだった。ただし専任教員は模試の結果から担当する教科の点数によってクラスを分けて、1講義を2クラス、2名の教員で授業を行ったことは有意義だったと考えており、次年度も継続したい。

様々な対策を施してきたが、一番は学生の『やる気』であり、いかに早期からコツコツと努力する姿勢を引き出せるかが重要となる。

(2) 検定・認定試験

1年次の接遇・マナーの授業終了後、3級の検定を受験している。また不合格であった場合は後日に再受験し合格を目指している。

3年次には歯科医療事務の授業を行い、歯科医療事務管理士認定試験へと繋げているが、実務者の受験が多く難易度が高い問題が多い。

年 度	歯科医療事務管理士		サービス接遇マナー検定	
	本校合格率(再試験)	全国合格率	本校合格率	全国合格率
R 3	100 %	81.9 %	93.2 %	79.1 %
R 2	90.6 % (96.9%)	73.2 %	82.1 %	64.5 %
R 元	100 %	79.5 %	100 %	81.7 %
H 3 0	100 %	79.3 %	94.5 %	65.3 %
H 2 9	94.7 % (100%)	84.2 %	73.5 %	63.2 %

《現状と課題》

歯科医療事務管理士は過去5年間の卒業生の全員が取得できた。これを一区切りとして次年度以降は他の検定試験に変更することにした。理由は3年次後期には課題研究や科目試験、そして国家試験対策があり、学生からも検定受験時期の変更の要望があること。加えて難易度が高く相当の学習時間を要することなどである。歯科衛生士に必要な診療記録に係る知識であるため、難易度を下げた他の検定試験に変更することで、学生の負担を軽減することにした。

また、サービス接遇マナー検定では、内容が本校の求める医療人としてのマナー、ホスピタリティに基づく対応の習得に合っていないことから、こちらは次年度から検定試験は実施せずに授業を行うことにした。

3. 教職員

(1) 教職員の状況

・専任教員	7名	非常勤講師	59名	合計	66名
・専任職員	1名	兼任(務)職員	1名		

指定規則による専任教員は4名であるが、本校は6名がおり校長を含めると7名在籍している。令和3年度は育休の教員が復職し年度の始めから全員が揃った。

専任教員は指定基準資格を満たしているが、全衛協の専任教員講習Ⅰ～Ⅴを修了したのは6名中3名であり、中途になっている講習の参加をすすめ認定資格を得るため計画している。

函館歯科医師会との連携により、歯科専門科目には非常勤講師を選定し教授いただいている。また、歯科衛生士科目に関しては専任教員の他、北海道歯科衛生士会函館支部の会員や臨床実習指導者の中から選定し講義や実習時の指導を依頼している。

《現状と課題》

専任教員は、主に予防処置、診療補助、保健指導の主要3教科を担当しているが、これまでは臨床勤務時に担っていた業務に照らし、担当教科を決めていた。しかし令和3年度から教科を固定せず数年単位で交代するよう計画していくことにした。専任教員が3教科すべてを経験することで、学生への指導がしやすくなること。また学生目線ではどの教員にも指導を仰ぐことができるほか、特に国家試験対策時には担当教員から3教科すべてを教授してもらえる。さらに本校としては今後教員の欠員が出た際にでも柔軟に対応できることを目的としている。

令和3年度は、診療補助と予防処置から各1名の交代から始め、次年度以降2年毎に交代できるよう計画する。

(2) 教員研修

令和3年度研修受講実績（専任教員6名分）

1. 全国歯科衛生士教育協議会	
第12回日本歯科衛生教育学会（WEB）	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊
2. 北海道歯科衛生士養成機関連絡協議会	
専任教員研修会（WEB）	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊、山岸
3. 日本歯科衛生士会	
DH-KEN 災害歯科保健（WEB）	永橋
DH-KEN はじめての在宅歯科医療（WEB）	永橋
4. 北海道歯科衛生士会	
なし	
5. 北海道歯科衛生士会 函館支部	
高齢者・障がい者の口腔機能の変化（WEB）	渡邊、永橋、三浦、渡邊
幸せを呼ぶ口腔 Pro ケア（WEB）	渡邊、永橋、三浦
6. 歯科医師会（函館・北海道）	
なし	
7. 関連職種団体	
第24回日本歯科医学会学術大会（WEB）	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊、山岸
第6回函館市医療・介護連携多職種研修会（WEB）	渡邊、永橋、三浦、千葉、山岸
R3年度函館市医療・介護連携多職種研修会介護向（WEB）	渡邊、永橋、三浦、千葉、渡邊
第15回北海道歯周病合同研修会（WEB）	渡邊、永橋
第1回青森歯科衛生士会生涯研修（WEB）	渡邊、永橋
8. その他	
松風オンラインセミナー ホワイトニング（WEB）	渡邊
松風第12回歯科衛生士養成校教員研修会（WEB）	渡邊、三浦、千葉、渡邊
雪印 口腔ケアWEBセミナー	三浦
GC友の会 X線写真の心得（WEB）	三浦
北専各連函館支部 学習障害について	渡邊、永橋、三浦、渡邊、山岸

《現状と課題》

専任教員に必要な全衛協の教員講習Ⅰ～Ⅴについて、本校では2名が連続して参加できない状況にあり、講習Ⅱを終了後中断したままになっている。5日間の日程だがリモートが可能であれば次年度から参加し、早期に教員認定を取得したいと考えている。

コロナ禍により、リモート型の研修が増加したことで、これまで参加できなかった研修を受講できるようになった。

4. 在学生の状況

(1) 学生数・定員充足率（40名定員）

※5月1日現在

年度	1年	2年	3年	合計（充足率）
R 3年度	39名	39名	32名	110名（91.7%）
R 2年度	40名	34名	34名	108名（90.0%）
R 元年度	34名	37名	36名	107名（89.1%）
H30年度	38名	39名	34名	111名（92.5%）
H29年度	40名	34名	38名	112名（93.3%）

(2) 年間退学者数・率

年度	1年	2年	3年	合計（退学率）
R 3年度	4名	2名	0名	6名（5.4%）
R 2年度	1名	4名	1名	6名（5.5%）
R 元年度	0名	4名	0名	4名（3.7%）
H30年度	2名	2名	1名	5名（4.5%）
H29年度	1名	0名	0名	1名（0.9%）

(3) 学校行事

4月 入学式

新入生歓迎会（縮小して実施）

5月 春のレクリエーション（短縮開催）

6月 スポーツ交流会

10月 遠足

学校祭 → 校内レクリエーション大会に変更して実施

2月 臨床実習決意式

3月 歓送会（中止）、卒業式、祝賀謝恩会（中止）

研修旅行（中止）

《現状と課題》

退学者は前年度と同じく6名と多く残念な結果となった。理由は様々で、家庭環境の急変や出産のやむを得ない事情のほか、短大進学や就職の学生は、本人の希望する進学でなかったことが伺える。また歯科衛生士の仕事は好きだが勉強したくないとの学生は、歯科助手として就職するケースも出てきた。

本校では個別の学習サポートや、クラス全体での試験対策などに尽力しているが、本人の意欲向上を促すことは難しい。またコロナ禍で様々な活動が制限されている現状は『学校生活の楽しみ』に影響を及ぼしている。

○ 評価の観点・検証資料

学生便覧、シラバス、年間行事予定表、出席簿、休・退学生台帳、授業評価表
 函館歯科衛生士専門学校教務委員会規程、臨地・臨床実習計画表、実習評価表
 成績会議資料、模擬試験計画表、就業規則、函館私学研究紀要

IV 学修成果

1. 就職状況（卒業生 32名）

年 度	卒業生数	函館市内	渡島・檜山	道内	道外	合 計
R 3年度	32名	18名	2名	6名	3名	29名
R 2年度	31名	13名	4名	3名	11名	31名
R 元年度	35名	16名	5名	3名	8名	32名
H30年度	33名	21名	3名	5名	4名	33名
H29年度	38名	13名	6名	12名	6名	37名

2. 資格の取得状況

III 教育活動

2. 資格試験に記載

《現状と課題》

近年は求人の多さから就職を焦らない傾向にある。国家試験の合否を確認してからと言う学生は卒業までには決定せず、年度にも拘っていない印象がある。

勤務地に関してはクラスによって大きく異なり、令和3年度卒業生は地元志向が多く函館歯科医師会管内の就職率 69%と前年度より 15%回復した。またプレゼン形式になった就職説明会は学生にも好評であり、今後も同様に継続開催したいと考えている。

○ 評価の観点・検証資料

求人一覧表、就職一覧表、就職支援対策のフローチャート

V 学生支援

1. 在学生への支援

(1) 進路・就職

① 就職支援ガイダンスの実施（3年次5回）

- ・労働基準法について
- ・求人票の見方・確認ポイント
- ・求人票の掲示から採用までの流れ

- ・履歴書の書き方
 - ・税金に関する講演（外部講師による）
- ② 就職希望調査は、2年次と3年次に行い、担任が調査結果を用いて個人面談で詳細を聞き取り、それぞれの希望に合わせた指導をしている。
- ③ 函館歯科医師会からの求人は10月1日掲示開始としており、9月には求人受付と就職説明会のご案内文書を一齐に発送している。
- ④ 函館歯科医師会対象の就職説明会は、1医院15分間のプレゼン形式として日曜日に開催している。令和3年度の参加医院は14件だった。

(2) 学生相談

全学年ともに春期・秋期に担任との個人面談を実施し、問題の早期発見・対応に努めている。特に入学間もない地方からの学生には個別に住居を訪問し、生活環境面での問題や不安に対しサポートできるよう心がけているが、令和3年度はコロナ禍により控えることにした。

(3) 経済的支援

① 奨学金の給付（令和3年度入学生）

種 類	A特待(20万円)	B特待(10万円)	特別推(20万円)	キャリアD(5万円)	合 計
対象人数	2名	6名	1名	3名	12名 (135万円)

② 修学支援新制度利用者および日本学生支援機構の奨学金対象者 (R4.3.30)

制度 \ 学年		1年(35名)	2年(37名)	3年(32名)	合 計
修学支援新制度(減免)	I	11名	10名	4名	25名
	II	2名	3名	0名	5名
	III	0名	2名	1名	3名
学生支援機構(貸与型)		19名	13名	15名	33名

- ③ 函館歯科医師会奨学金制度では、月額2万円（3年間で72万円）の奨学金(返済義務なし)を3年間に渡って支給しており、令和3年度は2,3年生4名が対象になっていた。なお、令和3年度入学生から制度変更があり、年度途中で対象者を選出し、クラスの10%程度の学生に3万円を給付することになった。

令和3年度の1年生は9月に4名に奨学金が給付された。

《現状と課題》

修学支援新制度では、本校で33名の学生が対象となっている。コロナの影響により家計が急変した家庭もあって区分Iが増加している。また年度途中には緊急給付

金の対象者募集があり、学校が申請して4名が給付を受けた。

学生の1/3程度が支援制度の対象となっているほか、学生支援機構の貸与型の対象も同じく1/3がおり、担当職員1名の事務作業量はかなり大きく負担になっているが、学生に不利益が無いよう慎重に業務にあたっている。

(4) 健康管理

- ① 法令に従い健康診断、身体検査は4～5月に実施している。
- ② B型肝炎感染予防対策として、1年次にHBs抗原抗体検査を行い、陰性ではワクチン接種によりHBs抗体を確認するとともに、はしか・ムンプス等4種の抗体検査を行ってから臨床実習に入るようにしている。
- ③ 医務室ベッドの使用は緊急時のみとし、状態を見極め早退の判断をしているため利用頻度は低く、令和3年度の年間利用はわずか3回であった。
- ④ 新型コロナウイルスの感染対策としては、1日2回の検温と行動歴について記録するシートを作成し、毎朝担任が確認した。また校内の至る所に消毒剤を設置したほか、教室内の換気や消毒、昼食時の分散など、最大限の注意を払った。
- ⑤ 新型コロナウイルスのワクチンは早期に接種することができ、接種率は90%程度であった。

(5) 保護者との連携

- ① 令和3年度は特にコロナ関連での連絡、報告が多かった。学校からは緊急で文書を発送するなどして、保護者の混乱が無いよう対応に努めた。
- ② 成績不振学生や国家試験に向けては、家庭での学習支援の重要性から、相互サポートへの理解を得られるよう心がけている。
- ③ 体調不良により早退する場合には、担任から保護者に病状や状況などについて連絡してから帰宅させるようにしている。

《現状と課題》

コロナ禍につき、歯科衛生士教育では口腔を扱うため、校内演習の内容を変更して模型を使用したり、実施する場合でもリスクを考慮して細心の注意を払った。また学生の健康管理については保護者にもたびたび文書にて注意喚起を行った。

臨地臨床実習中の学年は学校の管理が行き届かないリスクがあるが、学生たちは自制した生活を送っており、全員が全ての時数を現場で学ぶことができたことは大きな成果であった。

2. 卒業生への支援

(1) 卒後研修会開催

令和3年9月5日(日) 9:30~12:30 参加21名

- ①中島慈夫先生 『どうしたら禁煙に成功するか』
- ②三河洋平先生 『患者さんが訴える口腔内のよく分からない痛みや違和感』

(2) 復職支援

中途採用の求人があった際には、北海道歯科衛生士会函館支部との連携により、会員に一斉メールにて求人情報を発信しているが、以前までのように、卒業生が学校に求職相談に来ることは稀になっており、雑誌や・サイト等の利用、または口コミで動いている印象である。

本校では、早期離職調査を卒後1年、3年で実施しており、その際に担任が卒業生の動向を把握できるので、タイミングが合えば直接支援している。

(3) 学校教材の貸出し

学校図書や歯科保健の指導媒体・器材等の貸出しは要望があるごとに随時行っており、卒業後の学びや勤務先での診療業務に対して協力している。特に現在の新図書室は新しい図書や雑誌が充実しており、卒業生にも好評である。

《現状と課題》

卒後研修はコロナ禍で昨年度に引き続き9月1回の開催とした。会場の密を避けるためリモート開催を考えたが、臨床の歯科衛生士はこの時点ではまだリモートに慣れておらず、参加者は学校の教室、講師は自宅または別教室からの配信とした。

日本歯科衛生士会の認定講習に承認されることもあることから、今後も北海道歯科衛生士会函館支部と連携しながら研修テーマを検討する。

3. 中学校・高等学校との連携

(1) 中学校

・次世代人材職業体験推進事業

月 日	学 校 名	人 数	時 間
7/ 7	伊達市立光陵中学	30人	9:30～11:30(2h)
	豊浦町立豊浦中学	4人	13:10～16:10(3h)
8/20	松前町立松前中学	8人	8:30～11:00(2.5h)
	鹿部町立鹿部中学	10人	9:30～11:00(1.5h)
10/22	留萌市立港南中学	3人	9:00～10:30(1.5h)
11/11	上ノ国町立上ノ国中学	4人	13:00～15:00(2h)
11/29	八雲町立八雲中学	13人	10:00～12:00(2h)
合 計	7校 (昨年度比+3校)	72人 (+49)	14.5時間 (+7.5h)

(2) 高等学校

- ① 学園姉妹校である函館大学付属柏稜高等学校と連携し、キャリアデザインプログラムに講師を派遣したり、職業体験として生徒の受け入れをしている。
- ② 高等学校の職業説明会への参加のほか、高等学校独自のガンダンスには依頼があれば必ず参加している。

《現状と課題》

次世代人材職業体験は、昨年度の3校から7校へと通常に戻った。ただし函館市内の中学はなく、近郊と遠方の学校になった。歯科の体験が好評で常連校もある。

○ 評価の観点・検証資料

就職希望調査、個人面談票、求人票一覧、就職支援のフローチャート
入学試験要項、函館歯科医師会奨学金支給規程実施要綱、入学試験判定資料
職業説明会実施記録、口腔保健教育授業実施記録、卒後研修会開催記録

VI 教育環境

1. 施設・設備

(1) 普通教室

教室には電子黒板、スクリーンが設置されており、PCやタブレットでの授業も容易にできる。また、学生用の鍵付ロッカーを備え付けており各自で貴重品の管理や教材の保管に使用している。さらに流し台も備わっており、教室内で実技や演習を行う際には便利に使用している。

普通教室は全室冷房を完備しており、夏場でも快適に授業を受けられる。

(2) 実習教室

① 基礎実習室では診療台をU字に14台配置し、ロールプレイを行う際に、教員の巡視・指導の導線が良い。また、洗い場を中央に広く配置しており、準備・後始末には安全なスペースで目が行き届く。

学生が器材の消毒・滅菌を行いやすいように、前方に滅菌器や超音波洗浄機などの機材を揃えて配置している。

② 実験室は主に診療補助の授業に使用し、必要器材の準備から後始末までを学生ができるように備品が整理・収納されている。机は8人掛けの広さがあり、水道蛇口は9か所あるので実習以外にも多目的で使用できる。

③ マネキン実習室には、歯科診療台の仕様を机にしたものが40台設置されている。ライトやシリンジ、切削エンジン等も備わり、『人』を対象とする演習の前に重要な基礎実習で使用しているが、カメラと机上モニターがあることからそれ以外の実写を要する授業においても効果的であり、多目的に使用が可能である。

④ X線教室は、撮影室3室と暗室が2室あり、壁、ドア、ガラスに放射線防護装置が施されており、安全に授業ができる設備となっているほか、デジタル撮影装置も備わっている。撮影室のガラスにヒビ割れがあったが、放射線の漏れはなくそのまま使用していたが、令和3年度には修繕費でガラスを交換した。

⑤ PC実習室はパソコン机42台を設置しており、情報処理・統計の授業のほか、

口腔保健管理での患者データの入力・管理や、課題研究のデータ管理・分析とプレゼン用スライド作成など広く活用している。

函館看護専門学校との共用である。

(3) その他

- ① 標本室は学習室の機能を兼ねており、器材や模型が展示されているほか、自己学習用の机・いすも備わっており、学生は自由に使用できるようになっている。特に国家試験勉強や昼食時の分散に使用されていた。
- ② 医務室には、2床のベッド及び寝具が備えられ、一時的な休養に使用する。
- ③ 1F ラウンジでは、シダックスによる食堂運営がされており、学生、教職員が利用するほか、休憩時間や放課後の使用、学生指導や打ち合わせと多目的に使用している。
2F ラウンジⅡには部屋の窓側半周に渡ってカウンター席があり、ソファ席やテーブル席もあり、休憩や食事のほかにも個人学習やグループ学習、アクティブラーニングなど多目的に使用できる。
- ④ 新校舎にはエレベーター、多目的トイレを設置しており、学生や講師が車いすでも対応できる。

《現状と課題》

各実習教室の放課後使用状況 (R3年度、R2年度)

期 間 \ 各教室	マネキン室		基礎実習室		実験室		PC実習室		合 計	
	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2	R 3	R 2
前期 (4～8月)	141	115	147	43	177	184	182	2	647	344
後期 (9～3月)	82	180	1	53	7	46	233	103	323	382
合 計	223	295	148	96	184	230	415	105	970	726

上記の表から、放課後に自主的にスキルアップに努める学生は昨年度並みに多いことが分かった。なお、PC実習室の使用が増加しているのは、3年次の課題研究のほか、臨地臨床実習における実習時間の消化状況をエクセルで管理しているものである。

コロナ禍になり普通教室内の三密回避は困難ではあるが、机を横幅いっぱい広げているため、窓側学生は電子黒板が見づらくなっている。電子黒板を中央に設置することはできないため、ディスカッション無しで机を廊下側移動し対処している。またPCを中央の教卓に置くとやはり電子黒板が見づらくなるなど不都合はあるが、授業は分かりやすくなるため、当面は工夫しながら使用していく。

2. 実習施設

(1) 歯科医院・歯科関連施設

・実習登録施設	歯科医院	102件	(函館、渡島檜山、伊達、えりも、弘前、 鱒ヶ沢、五所川原、八戸、北上、大湊)
	総合病院	5件	
	センター	1件	
	病院	7件	合計 115件

《現状と課題》

歯科医院の実習施設は5件増加した。

前年度にコロナの関係で実習期間を3から2クールに変更したが、令和3年度も同様にすることで実習依頼施設数を減らすことができ、困難を少し解消できた。

昨年度に実施できなかった周術期、回復期の病棟実習はまた実施することが出来なかったことは残念である。しかし、コロナ禍において臨床実習が実施できずに校内の模擬実習に変更する学校もあるなか、本校は全員が全ての時数を臨地・臨床の場で学べたことは大変価値あることで、函館歯科医師会をはじめ関係者各所に感謝している。

(2) 幼稚園・保育園

・登録施設 13園

園児にたいする集団指導の授業を行っていたが、カリキュラム改正により時間的に実施できない状況となっているが、将来的には臨地実習の施設として再開したいと考えている。

(3) 高齢者施設

・登録施設 13施設・事業所

3年次に2週間の臨地実習を実施している。昼食後の口腔ケアの際に本校教員が巡回指導しているが、本校の非常勤講師を指導者として依頼し、各施設にて学生の指導にあたっていただく。令和3年度も中止となったが、次年度に可能であれば実施する。

《現状と課題》

コロナ禍において非常に制限があるなか、本校は高齢者施設の実習を実施することができている。道内では実習施設に高齢者施設を登録していない学校もあるなか一人10日間の実習を受け入れていただいております、学生は貴重な経験を得ている。

現在、歯科衛生士養成施設指定規則に改正の動きがあり、努力義務であった高齢者施設での実習は必須へと変更される可能性がでてきた。また、幼稚園・小学・中学校なども臨地実習施設にできるよう仕組みが整備されることで、歯科医院以外にも歯科衛生士の幅広い活躍の場が構築できればと考える。

3. 防災計画

・防災訓練実施日 令和3年6月23日（水）12：15～

《現状と課題》

函館看護専門学校と合同で訓練している。両校相談のうえ例年6月第4週に設定して年間計画に入れている。校舎に階段が3か所にあることで、2階からの歯科学生と3階からの看護学生がスムーズに避難できているが、毎年発生元が同じため、他の避難経路も準備しておく必要がある。

○ 評価の観点・検証資料

歯科衛生士学校養成所指定規則、歯科衛生士養成所指導要領
臨床実習施設の概況書

VII 学生募集

1. 広報・学生募集活動

(1) 高等学校内説明会・ガイダンス

・令和3年度実績 説明会9校、ガイダンス7校（昨年度：3校、1校）

函館・渡島・松山管内と青森県内の高等学校にて職業説明会の案内があった際には参加していたが、令和2年度よりも回復したが、まだ機会が少ない状況にある。

(2) 高等学校訪問

・令和3年度実績 年間65校、179回（昨年度：49校、108回）

訪問エリアを固定し4名の専任教員が担当しており、令和3年度は年間3回の訪問を目標にして取り組んだ。コロナ感染者数が落ち着いた時期もあって、殆どは面談が叶った。

青森県内では、これまで青森市、八戸市に歯科衛生士養成校があったところ、令和4年4月に弘前医療福祉大学短期大学部『口腔衛生学科』が開設される。短期大学は北海道には無く、北東北でも初となるため本校の募集エリアではこれまで以上に苦戦を強いられることは間違いない。

(3) 進学相談会

・令和3年度実績 年間20回、111人（昨年度：16回、77人）

各業者は感染防止策を徹底したうえで開催するようになり、本校も参加できる機会が増加した。既に少子化の影響で集客そのものが大幅に減少しており、本校の優先順位としては、各高等学校内で開催される説明会やガイダンスに移行している。しかし、生徒に直接接触できる貴重な機会であるため、

今後も選択しながら参加していく。

(4) オープンキャンパス

・令和3年度実績 年間7回、参加83人（昨年度：5回、73人）

令和4年度入学生のうちオープンキャンパスに参加した学生は45.8%だった。これはR3年度76%、R2年度88%と比べ大きく減少している。理由としてはコロナ禍の影響を受けていることと、本校を第1希望とする生徒が減少していることがあげられる。しかし、オープンキャンパス参加者からの入学率は高いため、本校の魅力を実際に体感してもらえるオープンキャンパスにいかに参加してもらうかが課題になっている。

(5) はこだてキッズタウン

・令和3年度は中止

小学校3、4年生を対象としており、毎年の来場者は500人を越えている。本校は北海道歯科衛生士会函館支部に協力いただき参加しているが、人気のブースで100名弱の児童が参加してくれていた。令和4年度に開催することを願っている。

(6) 学校ホームページの充実

職業実践専門課程の認定要件、修学支援新制度の機関要件の両方を満たすための情報公開と、その更新について確実に行っている。

令和3年度は、事業計画にもあった通りInstagram、YouTubeも始めたことから、ホームページにもサイトを埋め込んだ。高校生にとって見やすく、学校パンフレットにはない生きた情報を発信したいと考えており、次年度はホームページのリニューアルを検討している。

《現状と課題》

令和4年度入学生が大幅に減少したことを重く受け止め、何度内に教職員全体で何度か対策を練った。

歯科衛生士はまだまだ認知度が低く、本校のPRも含め歯科業界全体からの情報発信が圧倒的に少ない印象がある。職業の認知、そして興味、それから学校を選択に進むことを考えると、幅広い情報発信と広報活動が必要だと考える。

2. 学生納付金

(1) 学校納付金

入学金	200,000円
授業料	550,000円（年間）
実験実習費	190,000円（年間）

(2) 業者への納入金(R3年度)

	教科書	実習衣	実習器材	研修旅行	国家試験旅費
1年	69,960円	28,369円	54,900円		
2年	53,350円			中止	
3年	3,080円				21,600円

教本、白衣等、器材、研修旅行費用に関しては入学試験要項に記載があり、学生は入学時または進級時に業者から直接購入している。進級時の購入に関しては、事前に保護者宛文書によって内訳金額を提示している。

《現状と課題》

令和3年度はコロナ禍で家計急変家庭も少なくなく、授業料の延納願いが多い年だったが、最終的に年度を超えて未納となるケースは無かった。また業者への支払いが滞った事例もなく安堵した。

研修旅行は、コロナの関係で研修施設である東京都立心身障がい者口腔保健センターが受け入れを停止しているため計画できない状況にある。研修場所を変更して実施するものか、または暫くは見合わせるのか、本校の研修旅行自体の扱いを検討しなければならない時期にきている。

○ 評価の観点・検証資料

令和3年度入試広報報告、入学試験要項（授業料、実験実習費）諸費用内訳

VII 財務状況

1. 予算・収支計画

令和3年度予算の支出で大きな項目は、修繕費支出としてX線教室内、撮影室の防護ガラスの交換(91万円)があった。また光熱費の高騰により光熱水費支出は例年を大きく上回った。広告費支出に関しては、業者契約を見直し(約100万円)を削減した。

特定資産繰入は、施設関係支出が大きかった前年度を上回ることができた。

2. 会計処理・監査

法人の経理と養成施設(学校)の経理とが統合されており、会計帳簿、決算書類等、収支の状況を明らかにする書類は学校に完備されている。

学校会計監査は、適正に実施されており指摘事項はなかった。

《現状と課題》

令和3年度は年度途中で修繕費用100万円の支出があったことと、光熱費支出以外は概ね予算通りであった。しかし退学者数は予想を超えており財務に影響する。

次年度学生数の減少から厳しい財務が数年は続くものとして、学生数の確保とともに退学者を減少させること、そして経費節減に学校全体で取り組んでいく。

3. 財務情報の公開

財務情報に関しては、ホームページにて公開しており、『財務情報閲覧資料』としてファイル管理・保管もされている。請求のあった場合には対応できる体制は整っている。本校は職業実践専門課程の認定校であり、財務の情報公開は義務である。

《現状と課題》

現在『財務情報』としては、学園ホームページのほか、学校ホームページでも同様に公開している。修学支援新制度対象校において義務となっており、毎年更新されることになる。

○ 評価の観点・検証資料

公認会計士監査資料、予算編成会議資料、財務情報閲覧資料

Ⅸ 法令等の遵守

1. 各種法令の遵守

歯科衛生士学校養成所指定規則に従い、定期報告、申請、届出について必要な事項を掌握し適切に対応しており、法令遵守に努めている。令和3年度は実習施設の追加登録の申請をおこなった。なお、次年度は学則変更の予定もあり、早期申請の準備をしていく。また、職業実践専門課程の認定要件である情報公開に加えて修学支援新制度においても対象校として様々な学校情報を公開する義務があり、合わせて更新している。

2. 個人情報の保護

『野又学園個人情報管理規程』、『学校法人野又学園個人情報保護方針』により、学校が保有する個人情報について、厳重に扱っている。令和3年度からは、『個人情報の取扱いに関する同意書』を入学時に提出されるように変更した。

3. 自己評価の実施

年度末に教員全員による自己点検・自己評価を実施し、学校の実態を把握し、問題点を見つけ、早期に改善するよう努めている。また、結果については野又学園教育向上委員会に提出し、理事会の承認の後に学校関係者評価委員会の意見をつけてホームページにて公開、更新している。

令和3年度は、3月31日に7名にて実施した。

《現状と課題》

これからは、特にInstagram、動画（YouTube）の発信頻度をあげるため、投稿する際には十分に注意をしなければならない。

臨地臨床実習の調書に関しては既に氏名、生年月日以外の情報を削除しており、次年度は生年月日も削除する。

自己点評価ではこれまで100項目で評価していたが、内容を精査して令和3年度は80項目とした。

○ 評価の観点・検証資料

個人情報管理規程、個人情報保護に関する同意書、学校評価委員会規程

X 社会貢献・地域貢献

1. 社会貢献・地域貢献

- (1) 関連団体や学校関係者、個人に対し、学校の保有する歯科器材や保健指導用媒体等を提供・貸出している。
- (2) 研修会・講演会等の講師依頼があった場合には、可能な限り教員の派遣を承諾し、地域の口腔保健の向上に寄与しているが、令和3年度は函館看護専門学校1年生対象の口腔ケアの講義・演習のみであった。
- (3) 学校祭において歯科医療関係団体と連携し、公衆衛生活動と口腔保健の意識向上に寄与しているが、令和3年度も中止とした。函館歯科医師会と北海道歯科衛生士会函館支部にご協力いただいております、歯科業界のイベントとしても次年度には再開したいと考えている。

2. ボランティア活動

学生には、休暇中のボランティア活動と地域・近隣の施設でのボランティアを奨励している。例年夏季休暇中に高齢者施設の夏祭りにボランティア参加していたが、この状況で中止するところが多く、案内がなかった。

《現状と課題》

令和3年度も学校祭の開催を見送ったが、次年度は開催を目標として感染対策や制限など早期に検討していく。また令和元年度開催時にセキュリティの問題があったため、来場者の案内についても他校の実施状況に倣いながら検討しなければならない。

3. 職業教育・職業体験

V 学生支援

3. 中学校・高等学校との連携に記載

XI 学校満足度調査

1. 調査の結果

(1) 各学年の調査結果

1年生 (35名)

◎とても満足、○満足、×不満、××とても不満

項目	評価する内容		◎	○	×	××
教育課程	カリキュラム内容	教科目、時間割	13	21	0	1
	講義	机上の授業、リモートを含む	11	16	6	2
	校内演習	口腔保健管理、診療補助の相互実習、実技	12	18	4	1
	臨地臨床実習	歯科医院、病院、高齢者施設	25	6	4	0
施設・設備	教室、教育設備、教材	マシナ室、PC実習室、基礎実習、実験、電子黒板	21	14	0	0
	その他の施設・設備	図書室、ロッカー室、ラウンジⅠ・Ⅱ	20	10	3	1
支援体制	学習支援	学習計画、学習担当、国家試験対策	13	15	5	1
	就職支援	ガイダンス、就職説明会、求人票、面接サポート				
	各種奨学金の案内、手続	修学支援金制度、学生支援機構、自治体奨学金				
対応	専任教員	担任ほか全ての専任教員	10	18	4	3
	事務職員	電話、窓口対応など	27	7	1	0
	健康管理	感染予防対策、健康管理表	17	15	3	0

2年生 (37名)

◎とても満足、○満足、×不満、××とても不満

項目	評価する内容		◎	○	×	××
教育課程	カリキュラム内容	教科目、時間割	17	20	0	0
	講義	机上の授業、リモートを含む	10	23	4	0
	校内演習	口腔保健管理、診療補助の相互実習、実技	15	21	1	0
	臨地臨床実習	歯科医院、病院、高齢者施設	17	17	2	1
施設・設備	教室、教育設備、教材	マシナ室、PC実習室、基礎実習、実験、電子黒板	20	14	3	0
	その他の施設・設備	図書室、ロッカー室、ラウンジⅠ・Ⅱ	19	15	3	0
支援体制	学習支援	学習計画、学習担当、国家試験対策	18	17	2	0
	就職支援	ガイダンス、就職説明会、求人票、面接サポート				
	各種奨学金の案内、手続	修学支援金制度、学生支援機構、自治体奨学金				
対応	専任教員	担任ほか全ての専任教員	15	16	3	3
	事務職員	電話、窓口対応など	23	14	0	0
	健康管理	感染予防対策、健康管理表	18	18	1	0

3年生 (32名)

◎とても満足、○満足、×不満、××とても不満

項目	評価する内容		◎	○	×	××
教育課程	カリキュラム内容	教科目、時間割	19	12	1	0
	講義	机上の授業、リモートを含む	14	15	3	0
	校内演習	口腔保健管理、診療補助の相互実習、実技	19	12	1	0
	臨地臨床実習	歯科医院、病院、高齢者施設	20	10	2	0
施設・設備	教室、教育設備、教材	マゼン室、PC実習室、基礎実習、実験、電子黒板	27	4	1	0
	その他の施設・設備	図書室、ロッカー室、ラウンジⅠ・Ⅱ	25	7	0	0
支援体制	学習支援	学習計画、学習担当、国家試験対策	12	14	5	0
	就職支援	ガイダンス、就職説明会、求人票、面接サポート	19	12	1	0
	各種奨学金の案内、手続	修学支援金制度、学生支援機構、自治体奨学金	20	10	0	0
対応	専任教員	担任ほか全ての専任教員	23	9	0	0
	事務職員	電話、窓口対応など	27	5	0	0
	健康管理	感染予防対策、健康管理表	21	10	1	0

(2) 総合結果

	満足群 (◎+○)	不満足群 (×+××)
1年生	88.7 %	11.3 %
2年生	93.8 %	6.2 %
3年生	96.1 %	3.9 %

《現状と課題》

不満足群については、1年生ではリモート授業が初めての学生が多く、通常の授業よりも黒板の文字が見えにくかったとの意見や逆にずっとリモート授業が良いという学生もいた。また学習計画表を作成するのが面倒だったことが不満足になっているようだった。2年生もリモート授業に関する不満と、専任教員の対応への不満があったが、理由について記載はなかった。3年生は、学習計画書と国家試験対策における授業『総合講義』の教科順について意見があった。

次年度に向けてはリモート授業の改善を図りたい。PC使用のスライド授業では受診側は見やすくなるが、黒板使用の際には文字の大きさや濃さ、板書の範囲など注意が必要になる。加えてハイブリッド型では固定カメラでの撮影につき尚更である。また、学習計画書の記載が面倒だとの意見は少なくないため、簡略化しながらクラスに適したシートに変更するよう工夫し継続使用する。